

2024

Annual Report



Japan Dental Mission

NPO法人ジャパン デンタル ミッション



Contents

代表理事挨拶	3
活動地紹介	4
海外活動報告	7
フィリピン共和国カオハガン島	7
国内活動報告	36
国際理解教育～JDM の活動を通して～	37
海外活動参加者感想文	39
2025年度 海外活動予定	47
ジャパン デンタル ミッションについて	48
協力者名簿	49
クラウドファンディングを始めました	50

代表理事挨拶

JDM の活動は、1983 年から始まり、今年で 42 年目になります。2024 年度のパヌアツでの活動を準備していましたが、パヌアツ航空倒産との知らせが入りました。

JDM の活動拠点のペンテコスト島までのフライトがなくなったので、現地に行けなくなりました。また 2024 年 12 月に発生した大地震により首都のポートビラのビルや我々が滞在していたホテルが倒壊し、インフラ整備もできていないので、今年の活動もできない状況です。早急の復興を願っています。また、パヌアツ政府と JDM の MOU（覚書）の期限も切れているので、内容について見直しをして早急に対応を図る必要があります。次回の活動について、パヌアツ政府はタンナ島の人口が増えてきているので、タンナ島に戻ってきてほしいとの要望があり、次年度にはタンナ島において活動を行う予定であります。

一方、フィリピン、カオハガン島での活動は、今までは 11 月と 3 月に行っていましたが、この時期にお祭りで島民がいなくなるため、現地の要望で 10 月と 2 月に変更になりました。この数年技工士さんの参加がなかったのですが今回技工士さんの参加があり、入れ歯の作製、治療を再開いたしました。やはり入れ歯の要望が多く、これからも継続が必要であると実感しています。

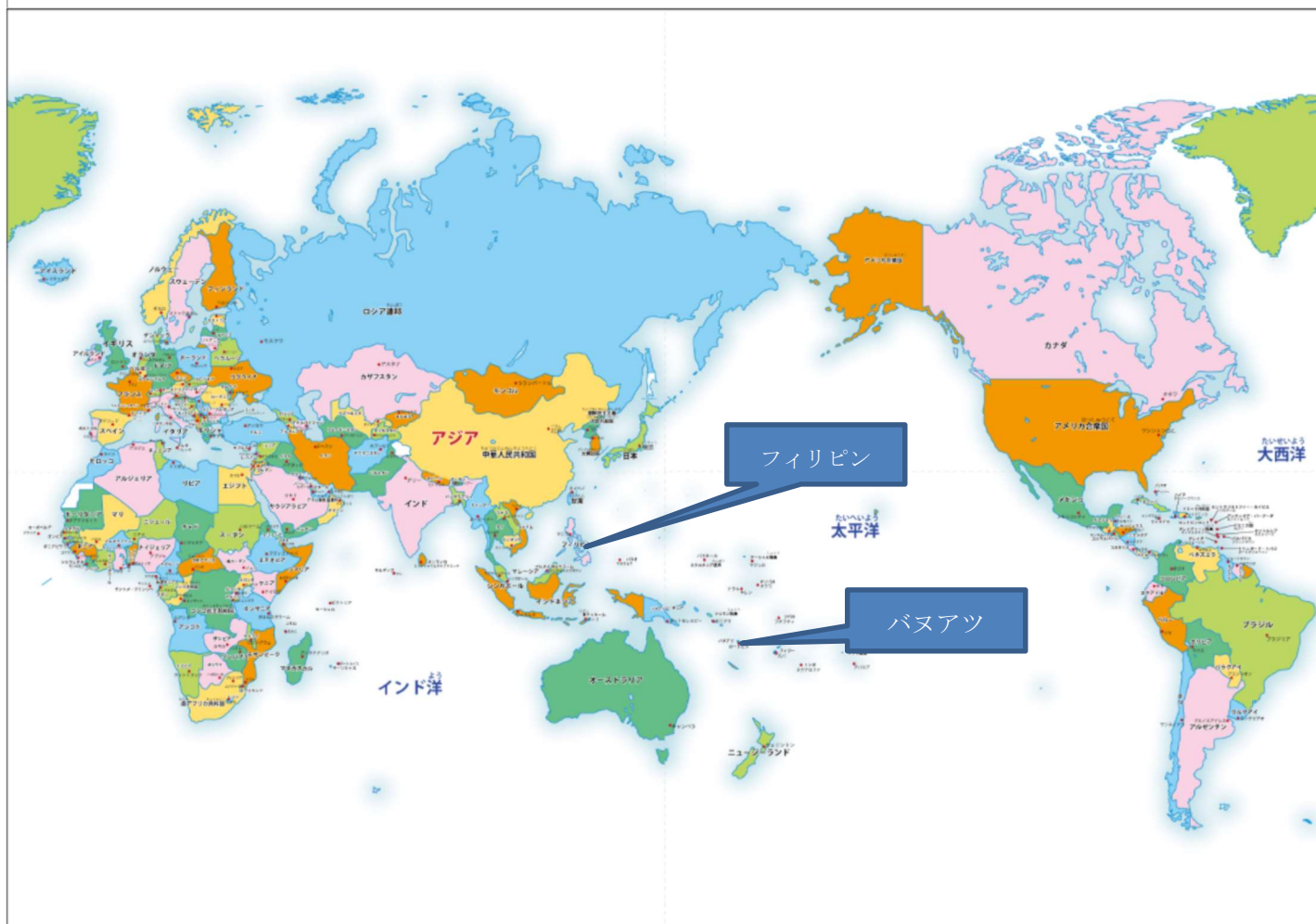
長年の活動で使用している機材の老朽化が進み財源も逼迫してきましたので、クラウドファンディングを立ち上げました。5 月 1 日から 7 月 29 日まで行うことになりました。

これからも現地の島民の為に活動を継続していきますので、皆様のご理解とご協力ご支援をよろしくお願いいたします。

代表理事 沢田 宗久



活動地紹介

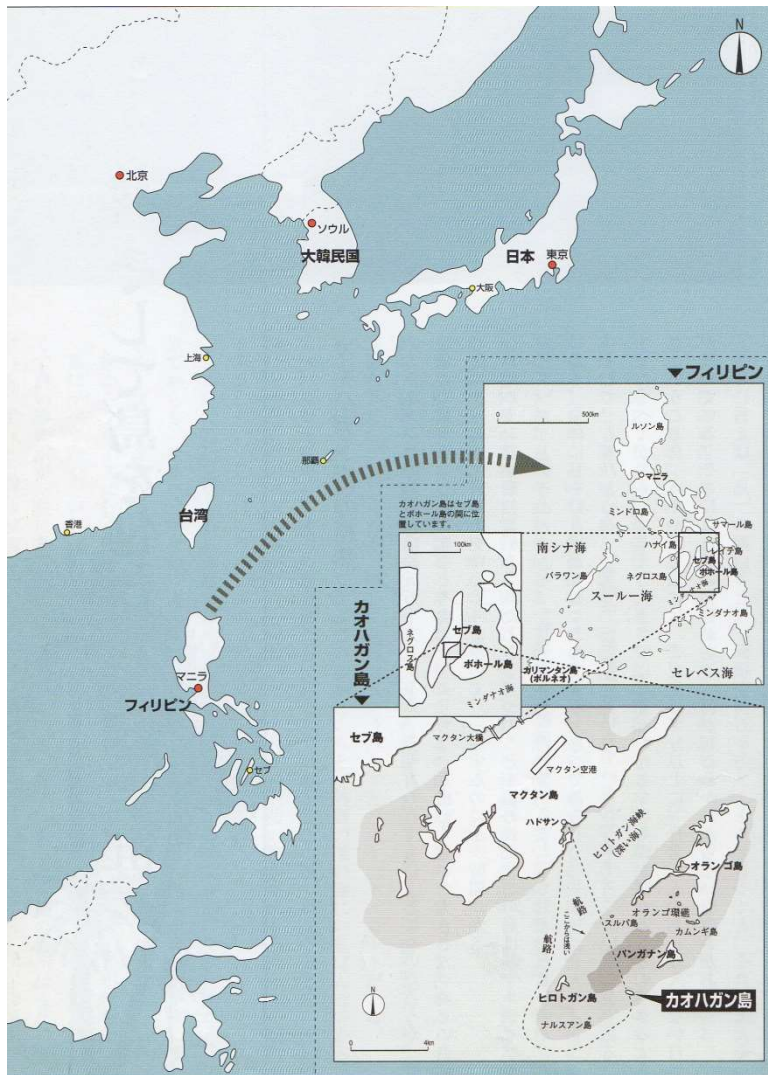


バヌアツ共和国



紹介：約 83 の島々から成り立つ
人口：約 29 万人
首都：ポートヴィラ（エファテ島）
言語：ビシュラマ語、英語、仏語
通貨単位：バツ（1 バツ＝約 1 円）
宗教：ほとんどがキリスト教
平均寿命：70 歳
生産物：コプラ（ヤシ）、牛肉
活動地：ペンテコスト島

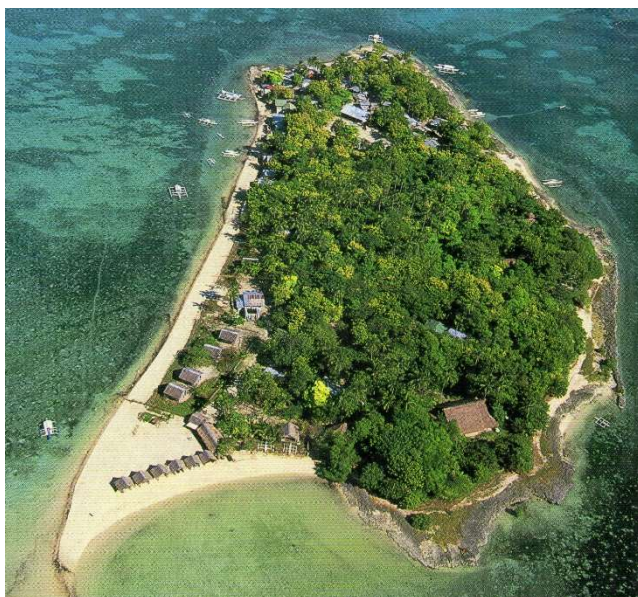
フィリピン共和国



紹介：7,109の島々から成り立つ
人口：約1億100万人
カオハガン島の人口は約650名
首都：マニラ（ルソン島）
言語：フィリピン語、英語、ビサヤ語
通貨単位：フィリピンペソ（1ペソ＝約2.5円）
宗教：ほとんどがキリスト教
平均寿命：71歳

生産物：バナナ

活動地：カオハガン島



海外活動報告

フィリピン共和国カオハガン島

場所 フィリピン共和国・カオハガン島

期間 2024 年 11 月 3 日～11 月 7 日

参加メンバー

〈左から〉大澤一雄(D) 倉橋朋子(H) 宮前真帆(H) 木田悠太郎(V) 高橋ひとみ(H) 嶋村寿美江(H)
羽邑紗智子(H) ゆうこ(カオハガンハウス) よしえ(カオハガンハウス) 沢田宗久(D)



活動内容

11月3日(日)

14時過ぎに集合場所セブ・マクタン空港に8人集合。カオハガンのトッペルが迎えに来た。

大型タクシーで埠頭に移動、人数も少ないので、小さい 2 隻のボートでカオハガンへ。小さいボートのた

め、大回りせずにカオハガン島に上陸。16 時頃到着し、部屋割りをしてからバランガイホールへ行き診療の準備をし、その後夕食・ミーティングで就寝する。



11月4日(月)

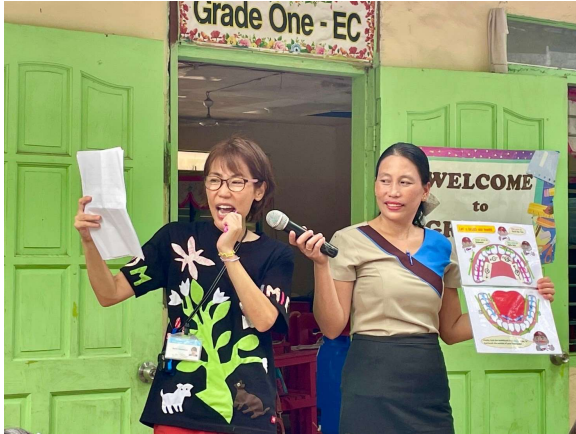
8時30分からD沢田とV木田が小学校ヘッドネーション(タオル・歯ブラシ) 文化交流のため、5,6年生に画用紙・クレパスを渡し作品制作することに。9時から残りのメンバーでバランガイホールへ行き診療する。準備に時間がかかり10時から診療開始する。今回はメンバーが少ないので、バランガイホールのスタッフが滅菌のアシスタントをしてくれた。モリーナさんと ノーマンさんが丁寧に洗浄して、オートクレーブを管理してくれた(DH 高橋の指導の下)。 今回周辺の島への活動アナウンスはなしにした。



11月5日(火)

9時から DH 嶋村 DH 羽邑 DH 宮前が小学校で保健指導へ。他のメンバーはバランガイホールで診療していく。保健指導から戻ってきから、一般診療と併行して、バランガイホールの外で小学生の歯科検診をしていく。DH倉橋 DH羽邑 DH嶋村 DH宮前 V木田がチェックアップ・シーラント・フッ素塗布をしていく。検診中、本人から希望があれば抜歯のためバランガイホールに入ってもらった。今回からグレード8までカオハガン島で授業出来るらしく150人の生徒数のため グレード4,5,6は午後の診療に歯科検診をしていく。いつもは全生徒数の何割かは逃げていて全員を検診出来ることはなかったが、今回集

計をしてみると150人全員の検診をすることができた(6日に前日休みのため検診にきた生徒含め)
モリーナさんはセブでの用事で不在、ノーマンさんと ダニエルさんが滅菌作業してくれた。





11月6日(水)

本日最終日のため10時30を目途に撤収作業に入る予定だったが、朝から小学生たちが、クリーニングや抜歯希望の生徒が来たのに加え、カオハガン島民も多く来院し、それもほぼクリーニング希望の患者が多く、できるだけ多くの島民を診てほしいと依頼があり参加メンバーには申し訳なかったが受付終了してからもどうしてもという患者さんを追加して予定よりも長く診療することになった。

その後、撤収作業に入っていく。



昼食後、各自シュノーケル・マッサージ・アクセサリ作り(ピアス)などで時間を過ごし、夕方からポイントグ(砂浜)で運動会をする。今回は'ルレー・お玉'ルレー・お菓子とり競争・玉入れ・綱引きをする。口唇口蓋裂のジッピーも運動会に参加、元気そうな顔を見せてくれた。

今回も 恒例のたこ焼きパーティー マンゴーパーティーはもちろん開催する。



11月7日(木)

3時30頃の暗い中、2隻のボートでカオハガン島を出発 ショートコースで埠頭に到着。タクシーで空港に移動し各自帰路につく。

・言葉は少なかったが、今までの診療を見ていて自分の出来ることを探して知らない間に一人で最終集計を(他のメンバーに分からないことは聞きながら)してくれた V 木田くん



- ・今回も数か月前から時間と労力をかけてそれも英語翻訳だけでなく、ビサヤ語で子供たちの歯を守るために媒体を作ってくれた DH 嶋村さん
- ・豊富な知識でオートクレーブや洗浄・滅菌のサポートをしてくれるバランガイホールスタッフへの指導や全体に目を配り必要なものなどないかと頻繁に声をかけてくれた DH 高橋さん
- ・いつも言葉のサポートをしてくれてどこか包み込むような安心感があり、誰か代わりにやってほしいと思った時には必ず彼女から声をかけてくれて、場の雰囲気をよくしてくれる DH 羽邑さん
- ・初参加だけどカオハガン島へのリーダーで今回、クリーニング患者が多く彼女にはスケーリングばかりしてもらっていたが、クレームもなく次々と治療をしていってくれた DH 宮前さん
- ・リーダーを快諾してくれ、いろいろな提案をして今回の活動や今後の活動が良くなるように助言してくれ、治療も来るもの拒まず D(入歯)修理から、充填・抜歯までなんでもこなした大澤先生
- ・高齢にもかかわらず、多くの抜歯を担当し最終日の夜も小学生の歌のプレゼント後のダンスで JDM メンバー1踊っていた沢田先生

今回参加人数が少なくどうなるか心配していたが、カオハガンスタッフよしえ、ゆうこ、トッペル、バランガイホールスタッフモリーナ、ノーマン、ダニエル、カオハガン島村長など多くのサポートと素敵な参加メンバーのおかげで無事に終えることができた。

リーダー総括

参加者の皆さん今年もカオハガンでのボランティア活動お疲れさまでした。

今回はドクター2人、歯科衛生士4人、ボランティア1人の7名のJDMメンバーに加えてフィリピン在住の歯科衛生士1人のお手伝いで、合計8名での活動でした。近年ではこの少数での活動は珍しかったと思います。

当初は少人数がゆえに活動の幅も制限されることが予想され、カオハガン島以外へのアナウンスを控えての活動開始でした。

ところがカオハガン島住民から、親戚や友人等へのネットワークにより活動が周知され、結局周辺の島々の患者さんも診るという結果になりました。

活動の内容は、ドクターも含めて役割分担もきちんとでき、メンバーの一人々

々が自主的且つ、積極的に行動をしていただいたため、まるでこの人数で活動していたのが不思議なぐらいスムーズにミッションをこなすことができました。

活動前後の毎回のミーティングでも積極的に意見が出て、わずかな問題点が全て成功の結果に導けるというリーダーを任された自分が何も指示もせずスムーズに今回の活動が終えられたと感じています。

実際の患者さんたちのお口の中はというと、最近何年かの報告にもあるようにカオハガン島の住民に関しては、年齢を問わず口腔内が良好な傾向にあり、全歯列にカリエスがなく、治療も不要でフッ素塗布のみで完了という患者様が増えており、「沢田イズム」が浸透してきた証だと思いました。

周辺の島に関しては、10歳前後で、6番の抜歯をしなければならない子供たちや、多くの臼歯を抜歯しなければならない大人たちがまだまだみられました。

今後の課題としてはもちろん抜歯する歯を少なくすることももちろんですが、抜歯ゼロにはなかなかならないと思うので、特に臼歯の欠損に対する補綴が必要なのではないかと感じました。

大澤一雄

データ

治療結果

	4日	5日	6日	合計
抜歯	41本	58本	15本	114本
CR	14本	9本	5本	28本
シーラント	0本	23本	1本	24本
SC	23人	29人	24人	76人
TBI・フッ素	0人	118人	0人	118人
義歯修理	1床	3床	0床	4床
義歯増歯	3床	0床	0床	3床
人数	47人	209人	42人	298人

島別受診者	
カオハガン	62人
カオハガンスクール	166人
カブルアン	58人
サンタロッサ	7人
パンダノン	5人
合計	298人

場所 フィリピン共和国・カオハガン島

期間 2023 年 11 月 1 日～11 月 5 日

場所 フィリピン共和国・カオハガン島

期間 2025 年 3 月 18 日～3 月 23 日

参加メンバー(上段左から)福西佑真(Dr) 池本花梨(Vo) 高橋ひとみ(DH)嶋村寿美江(DH)島猛(DT)

羽邑紗智子(DH)古市慧海(Vo)難波琉太郎(Vo)内山ますみ(DH)倉橋朋子(DH)

(下段左から)袴田杜(Vo)難波智津子(Dr)沢田宗久(Dr)大澤一雄(Dr)上原新翔(Dr)小林玲花(Dr)高鹿栞帆(DH)



活動内容

3 月 18 日火曜日

関空組、成田組ともにフライト変更もなく定刻通りのフライトへ。

関空で搭乗待ちの Dr 沢田が、以前バヌアツ共和国の活動に参加した衛生士さん(鈴木まよさん)に声をかけられ、搭乗ギリギリまで懐かしい話で盛り上がる。長年活動が続けてきた Dr 沢田だからこそその嬉しい再会のハプニングである。

13 時ごろセブ・マクタン空港に関空組が到着する。あとは税関で荷物のチェックを済ますだけのところで、日本から持ってきたコンテナ、ダンボールが税関にひっかかる。

ラプラプ市長からの許可証を見せ、迎えに来てくれていたカオハガンハウスのゆうこさんに電話で説明してもらうが「受領書」の「授与書」が必要との一点張りで埒があかず、とりあえず明日はカオハガン島に置いている機材や道具で診療を進めていくことにし、空港を出る。

その間に到着した成田組、現地集合の Dr 大澤、Dr 上原、DH 羽邑と合流し、迎えに来てくれたカオハガンハウスのゆうこさん、トッペルとも無事に合流する。ボートに乗り、カオハガン島へ。



16 : 30 頃、カオハガン島に到着。

ミーティング、自己紹介、部屋割りをしていく。

リピーターメンバーを中心にそれぞれ分担を決めて明日からの診療準備のために バランガイホールに移動する。

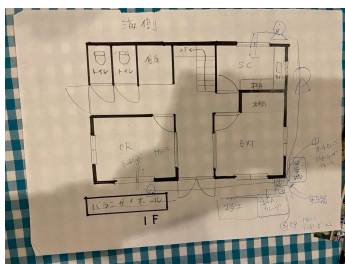
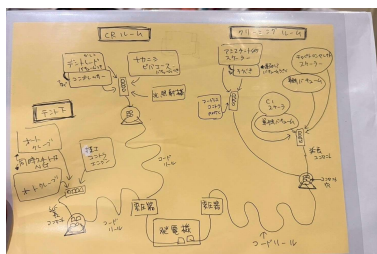


今回、初の試みとして、初参加メンバーはカオハガンハウスのスタッフに約 20 分の島の案内ツアーを体験してもらう。

小学校や教会、島の人たちの集落を見てもらい、活動前にカオハガン島の自然や暮らしを知ってもらう。その後、バランガイホールへ行きリピーターメンバーと合流する。



発電機とケーブルの配線、電気の導線を DH 倉橋が事前に図にしてくれていて、それを参考に機械をセッティングする。今回は男性メンバーが多く、手際よく電気を繋げてくれた。



いつも日本からの荷物のパッキング、活動がスムーズにいくように、資料作りや材料の補充などを全て DH 倉橋がしてくれて、毎回、感謝の気持ちでいっぱいになる。いつも頼りっぱなしの DH 倉橋の負担を少しでも軽くしたい！との思いから、DH 高橋 DH 羽邑 DH 嶋村が率先してみんなをまとめてくれ、JDM のチームが良い方向に向かっているように思う。



夕食後の 21 : 00 頃、マクタンに残ってくれていたゆうこさんが帰ってくる。

ラプラプ市長、カオハガン島の村長の力を借り、ゆうこさんが粘り強く説明をしてくれたおかげで、明日、荷物が戻ってくる！と報告があり、メンバーみんなが拍手と笑顔でお礼を伝える。

尽力してくださった、ゆうこさん、ラプラプ市長、カオハガン村長には心より深謝申し上げます。

3 月 19 日水曜日

朝から厚い雲が空を覆っているが、虹が出現！島全体が JDM の活動を心待ちにしてくれてたように感じる。

朝食を済ませバランガイホールへ。

空港に保管されていた日本からの荷物も無事に戻り、診療にむけて最終セッティングをしていく。

カオハガン島の村長ネットワークで近隣の島にも JDM が来ることが通達されており、既に多くの人たちが集まり、バランガイホールの前には長蛇の列ができていた。

できるだけ多くの人に治療を受けてもらいたいとの思いから、抜歯、前歯の治療、クリーニングのどれか 1 つにもらい、抜歯も 1 度の麻酔で抜ける範囲での本数に限定してもらう。





Dr、DH が役割分担しながら診療を進めていく。

抜歯希望の患者さんの多さもさることながら、前歯の治療を希望される若い患者さんも多かった。抜歯や治療を担当してくれた Dr 上原はまず、"あいさつをして""自分の名前をのり""相手の名前を聞いて"スタートし、治療中も終始声かけをされていて、患者さんもリラックスして治療を受けていた。Dr 上原がとても丁寧に治療をしてくれた綺麗に治った歯が維持できるよう、歯磨き、フロスの習慣づけをどうクリアしていくか……。新たなミッションができたように思う。



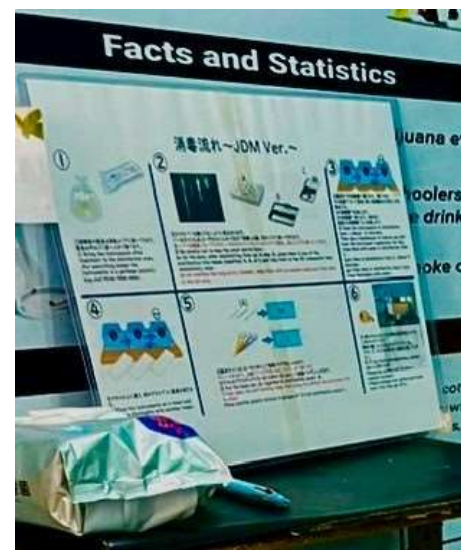
今回、Vo 参加が多いため、"滅菌技士" "歯科感染管理者" の資格を持つ DH 高橋が滅菌、消毒のマニュアルを作ってきてくれた。

誰が見てもわかるように、日本語、英語、ビサヤ語で手順が書いてあり、材料や器具の知識に精通している DH 高橋ならではのアイデアである。

それを参考に、Vo 難波(琉)、Vo 古市、Vo 袴田、Vo 池本が滅菌、消毒を担当してくれた。

リピーターの Vo 難波(琉)が中心となり、歯科に携わっていないメンバーには器具の説明や的確な指示をだして、頼もしくなって JDM に戻ってきてくれた。

手際よく器具の補充もしてくれたおかげで、Dr、DH たちは診療のみに集中できた。片付けをしている中で、細かい器具が何に使う器具か誰にでもわかるようにとのアイデアで、抜歯は赤、CR 充填は黄色、クリーニングは青のテープを巻き付けて1つ1つ分別もしてくれていた。頼もしい Vo チームだった。





お昼休憩をとり、午後の診療スタートへ

午後からの診療を進める中、学校検診の時に不在との事で、8th grade(中学2年生)、9th grade(中学3年生)の生徒たちがチェックアップにきてくれた。

治療が必要な生徒もいたが、家族の方の承諾が必要なため、クリーニング、シーラント、フッ素塗布を行う。

DH 高鹿、DH 内山が活動中のほとんどのクリーニングを担当してくれた。DH のプロフェッショナルな施術をうけて、みんな笑顔で帰っていった。

クリーニングルームは深夜にスコールがあると雨が入って、電気コードや機材、テーブルが濡れてしまうので、DH 高鹿がビニールのゴミ袋を使って器用にカバーをしてくれた。深夜のスコールは予想がつかないので次回の活動時このアイデアをつかっていこうと思う。

DH 内山はクリーニングの合間に、待っている子供に歯磨きを教えてくれていて、日本では母親教室や子供の検



診に携わってる彼女ならではの心配りのように思えた。



外では朝から DT 島が入れ歯を作製してくれた。

技工士が1人ということで、2名の入れ歯希望者を募集していたが、希望者が増えて4名、計7床の入れ歯をお願いされたが、嫌な顔ひとつせずに快諾してくれた。



DT 島の熱意あふれる使命感に、DH 倉橋、DH 高橋は歯の型をとり、手が空いた Dr たちは交代で DT 島を全力でサポートした。



夜は恒例のたこ焼きならぬイカ焼きパーティで盛り上がる。ボスの

Dr 沢田を筆頭に DH 倉橋、DH 羽邑、DT 島の関西チームが美味しく作ってくれた。



3月20日木曜日

昨日からの雨が降ったり止んだりの朝を迎える。朝食をとりながらミーティングし診療へ

昨日も診療前から患者さんが待っていたこともあり、JDM メンバーみんなが自主的に診療開始時間より早めにバランガイホールに集合してくれた。

前回、診療を手伝ってくれたノーマンとアネリーンが今回も受付、通訳、患者さんの誘導を手伝ってくれた。前回、妊娠中だったアネリーンはベビーがうまれ、ママになっていた。



今日も抜歯希望の方が多く、Dr 総出で抜歯を行う。

口腔外科勤務の Dr 福西が難しい抜歯を担当してくれた。経験の浅い Dr には抜歯のコツをさりげなくアドバイスし、ピンチの時はスッと手を差し伸べてサポートをしてくれたりと、抜歯ルームの支えとなり奮闘してくれた。





午後からは Dr 沢田、Vo 池本、Vo 古市がドネーションのために小学校へ訪ねる。

各方面からの寄付、ご厚意でいただいた、歯ブラシ、タオル、鉛筆を子供たち一人ひとりに手渡ししていく。子供たちは嬉しさを隠しきれずにいる笑顔で大切に歯ブラシ、鉛筆を持っていた。





サッカーボールや鉛筆削りは小学校のみんなで使っていくとのこと。
未来を担う子供たちのために、協力してくださった方々には感謝に堪えません。

balanガイホールではカオハガン島の患者さんに加えて、パンダノン島からの患者さんが多く、いつも手伝ってくれるトッペルと Dr 難波がペアとなり前歯の治療を担当してくれた。

島民にも香川弁で喋る Dr 難波が CR ルームを和やかにし、絶妙なアシスタントのトッペルと NEW ペアが誕生した。



16:00 ごろ、DH 羽邑がセブに帰らなければならず、 balanガイホールをあとにする。

セブ在住の DH 羽邑のフィリピンの方の性格を熟知した英語でのコミュニケーションや抜歯後の説明は、頼りになるし、勉強にもなる。



この日も患者さんが終わっても入れ歯の製作は続いており、Dr 指示のもと歯学部生の Vo 袴田も手伝ってくれた。
DT 島から"めっちゃ器用で1番上手いかも!"と褒められていた。数年後、歯科医師となって JDM に戻ってきて



ほしいと願う。



夕食後のミーティングでは若い世代のメンバーが積極的に提案、発言してくれた。

Vo 古市はこの世代ならではの目線で物事を観察、分析して、アイデアを多く提案してくれた。



ベテランメンバーの経験値と若い世代のメンバーの柔軟な発想がうまく融合して、JDM が更に良い方向に昇っていくのではないかなと思うミーティングであった。

3月21日金曜日

昨日の雨もやみ、晴れ間も見える朝を迎える。

この日はバランガイホールに監査が入るとの事で診療を最小限にしてほしいと申し出があり、Dr 沢田と Dr 大澤のベテラン2人のみで診療を行う。

Dr 大澤は海外でのボランティア活動を多く経験しており、治療が必要な患者さんを的確に順番にピックアップして、診療を行ってくれていた。



Dr 沢田、Dr 大澤以外のメンバー全員は小学校で歯磨き指導を行う。

8th grade(中学2年生)と 9th grade(中学3年生)はセミナーで島外に出るとの事で、1st grade(小学1年生)から 7th grade(中学1年生)の生徒全員、校庭に集合し、今回はクイズ形式で子供たちにも参加してもらいながら歯磨きの



必要性や虫歯になる習慣を教えた。

歯磨き指導後はそのまま小学校で子供たちのチェックアップ→シーラント、フッ素塗布をしていった。



そのあとはランチタイムで子供たちはそれぞれの家に一旦帰るとの事だったが、先生が音楽をかけてくれて、子供たちとのダンスパーティが始まった。

メンバーも子供たちに教えてもらいながらダンスを楽しみ、腕相撲大会や腕立て伏せ、子供たちのキレッキレのダンスの上手さと無限の体力に感心する。

歯磨き指導に参加したメンバー全員が子供たちとの交流を楽しんだ。





昼食をとり、午後の診療へ。

この日は風が強く、波が荒いためか、他の島からの患者さんがおらず、カオハガン島の島民や、小学校でのチェックアップで治療が必要となった生徒が先生と一緒に来てくれた。



今回参加の Dr の中で 1 番経験の浅い Dr 小林はこの活動中、人一倍熱心に治療に取り組んでくれ、"毎日、すごい成長してるじゃん！"、"抜歯が上手くなってる！"と先輩 Dr から絶賛されていた。



Dr 同士の声かけや連携で抜歯を希望された全て

の患者さんを診療時間内に診ることができた。



抜歯ルームの入口には、入室時に抜歯患者の赤いガムテープをはる つまり これだけの人数の抜歯患者を半日でやり遂げた成果です。

外では子供連れのお母さんや学校終わりで集まっていた子供たちに Vo 池本が歯磨きを教えていた。

4 月から看護師として働く彼女にとって、JDM での経験を生かして新たなステージでの活躍を願う。



診療後は子供たちに誘われて、ポイントグビーチへ

3 月 22 日土曜日

この日も雲が多く朝日は見れなかったが、朝の散歩中に DT 島が製作した入れ歯を入れた男性に会う。

"食事也能するし、大丈夫！"と good サインを出してくれ、嬉しく思う。

今回入れ歯を入れた 4 名の方は初めての入れ歯だと思うので、これから起こりうる不具合にも対応していく必要があるし、継続して入れ歯を使ってもらいたいと思う。



朝食前に Dr 沢田、カオハガンハウスのよしえさん、ゆうこさんから、昨日から続く強風と波の荒さで明日のボートの運行が難しとの判断で、出発を 1 日早め、カオハガン島からオランゴ島経由でマクタンに移動するため、PM2:45 には島を出発することが伝えられる。

万が一、島を出れなくなった場合を考えての苦渋の決断だったと思う。

朝食後、午前中は撤収のための片付けをしながら、数名の患者さんを診ていく。

活動中、不具合のあったコンプレッサーと今回未使用だった以前からバキュームのみ故障していたアンジュラスのポータブルユニットは一旦日本に持ち帰り、修理を試みることとなった。



前日にクリーニングをする事を約束した 6th grade(6年生)のクリステルが友達を誘って朝から並んで待っていてくれた。



JDM の活動中、窓から子供たちが診療を見に来たり、バランガイホールに集まってきてくれるが、"クリーニングしよう!"と言っても口を押さえて"NO!"と言う子供が多く、将来的に歯を守っていくために歯磨きの習慣とクリーニングが根付いてくれたら良いなあと思っていた矢先に、自らクリーニングする!と言ってきて、友達も連れて来てくれた。

今回のメンバーは勿論のこと、クリーニング担当になった歴代の DH が窓の外に集まってくる子供たちに声をかけ続け、今まで活動に参加したメンバーが自分のフリーな時間を使って子供たちとコミュニケーションをとり、心を寄り添ってきたからこそ、子供たちにも何かしらの変化が生まれたのでは?と嬉しく思う出来事であった。



昼食後は本来ならアクティビティを楽しみ、ポイントグでの運動会を開催する予定であったが、それぞれが帰国に向けて荷物を整理する。そんな中、子どもたちが思い思いに島で咲いてる花をブーケにして、カオハガンハウスに集まってきてくれた。彼らなりに感謝の気持ちを伝えに来てくれたのだと思う。



出発までのわずかな時間であったが、メンバー全員が子供たちとの時間を楽しみ、見送りに来てくれた子供たち、よしえさん、カオハガンハウスのスタッフに見送られて、カオハガン島を出発した。

いつもは夜がまだすっかり明けきらない時間に出発だが、今回はたくさんの人たちに見送られての出発となり、ボートから見た情景は感動的で胸がいっぱいになった。

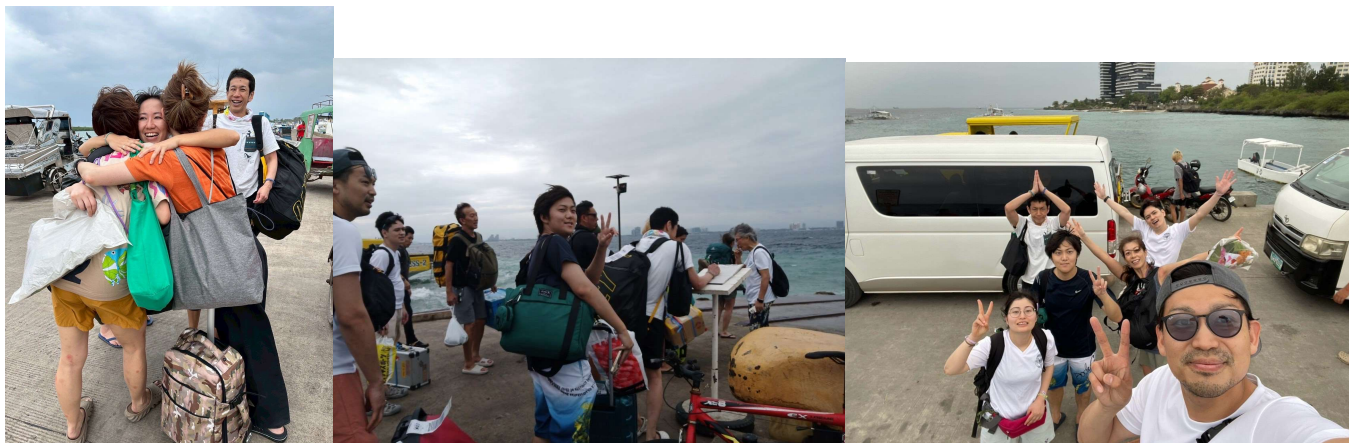
初参加のメンバーはアクティビティ、運動会が経験出来なく、申し訳なく思うが、この出発のシーンはメンバー皆の心に残る 1 シーンになったことと思う。

子供たちがカオハガンハウスに入ることを容認してくださった、よしえさん、ゆうこさん、カオハガンハウスのスタッフの皆さまには、心より感謝申し上げます。

14:45 ごろ、カオハガンハウスからボートでオランゴ島まで行き、そこからトライシクルに乗ってマクタン行き
の港まで移動する。



ここまで同行してくれたゆうこさんと別れ、マクタン行きフェリーボートに乗り、約 30 分でマクタンの港に到着し、ホテルへ移動する。



"今日の波は地元の人でもしんどいよー" と船長が言ってたほど、波が荒く、日本では欠航になるほどで運行中も常にボートが揺れていた。JDM メンバーも 2 人、船酔いでダウンしたが、夕飯までには回復して、全員でホテル近くのレストランで夕食をとる。



レストランのホールスタッフから Dr 沢田に

"私はカオハガン出身で、子供の頃から JDM で歯のチェックをしてもらってたから、今でも虫歯がないんです！
Dr 沢田、DH 倉橋のことは覚えていて、感謝しています！"
と、まさかの嬉しい再会がある。



夕食後はそれぞれが JDM 活動の最後の夜を楽しむ。



3 月 23 日 日曜日

早朝便、昼便、深夜便の順番でホテルをチェックアウトして、それぞれの帰路につく。



今回は雨雲も参加したので、乾季には貴重な"恵の雨"をカオハガン島にもたらした。

初日からのトラブル、天候による予定変更とアクシデントが多くあったが、メンバー全員、嫌な顔せず状況の変化をポジティブに捉えて、活動を行ってくれ、心から感謝いたします。

今回は参加人数が多く、資格や経験、年齢もバラバラではあったが、それぞれの個性が1つにまとまり、メンバー全員が同じ方向を向いて活動ができ、まさに"ONE TEAM!"という言葉がピッタリのメンバーだったように思います。

そして、嬉しいハプニングや出会いも多く、未来のある子供たちが進学、就職、結婚など、それぞれの道を歩んでいっても、"カオハガンの子は歯がきれいだね!!"とずっと言われるよう JDM でのサポートが必要であることを考えさせられる、感慨深い活動でもありました。

リピーターメンバーは勿論のこと、初参加メンバーは今回できなかったアクティビティ、運動会をリベンジするためにリピーター参加してもらえる事を心待ちにしております。

リーダー総括

2025 年 3 月のカオハガンツアーは Dr.6 名、DH5 名、DA4 名、DT1 名の、16 名での活動でした。

。

また、比較的若い世代の参加者が多くミーティングでも積極的に意見を出してもらえて相対的に考えてもとても良い活動ができたのではないかと感じています。

活動期間中、天候があまり良くなく、ほとんど雨降りの状態で、ほとんどが室内での活動

ではありましたが、早起きをして日の出を見に行っただけに見られないなど、せっかくの初めての参加者も楽しみが減ってしまいました。

治療に関しての数字は担当から別途示しています。今回は技工士さんが参加してくれたので現場で義歯の作成をすることができ、4 ケースの新規作製をしました。

カオハガン島での活動はもう長く、島民の口腔内も比較的によくはなってきましたが、まだまだ、カリエス、歯石沈着量は多く、また、周辺の島から治療に来る人数もそこそこいたので、今回のようにドクター数がある程度いると助かるなって感じです。

しかし逆にドクター数が多いとそこにアシスタントが必要になり、今回の DA さんは 4 名参加してくれましたが、現役の DA さんはゼロで、全て歯科診療従事経験が無かったので、ドクターの治療のアシスタントにはつけないで、介助に入るには DH が必要で、自然とケアに携わる人間が減るという事態になり、あっちを立てればこっちが立たず、という感じでした。

また、抜歯器具や滅菌消毒して繰り返し使用できる物は在庫が十分にありますが、主に機械類はメンテナンスが必要であったり、壊れているものを補修したり何とか使っているものが増えてきて、場合によっては新規に購入しなおした方がいい機械類が増えているようです。

天候不良は活動最終日まで長引き、最終日にやっと晴れて、太陽の下での活動終了となりました。

実は天候不良の影響がまだあり、帰りの出発時間波が高く島の船が出せない事態になり、急遽最終日の午後に予定していた島民子供たちとの運動会を含むアクティビティを中止

して午後の時間に、迂回ルートによりマクタン島へ渡ることになりました。その際、利用したフェリーが波風の影響で大きく揺れたので気分が悪くなったメンバーが数人出てしまいました。

天候の影響を避けて前日中にマクタン島へ渡ったため帰りの飛行機も全員が予定していた便に乗れ、無事に帰国することができました。

また、マクタン島での最終日のディナーは沢田先生のふるまいで皆楽しい時間を過ごせました。

色々なハプニングはありましたが楽しく充実したカオハガンボランティア活動ができました。

大澤 一雄

データ

治療結果

	19日	20日	21日	22日	合計
抜歯	45本	91本	22本	3本	161本
CR	25本	37本	13本	2本	77本
シーラント	7本		171本		178本
SC	34人	34人	8人	12人	88本
TBI・フッ素	2人	2人	21人		25人
チェックアップ	7人			2人	9人
義歯リベース	1人				1人
義歯セット	1床		6床		7床
投薬のみ	1人				1人
抜歯途中	1人				1人
人数	120人	141人	115人	15人	391人

島別受診者	
カオハガン・カオハガンスクール	165人
バンダノン	67人
パガンアン	87人
セントローサ	1人
カブラン	71人
合計	391人

国内活動報告

4月13日（土） 大阪府立国際会議場において
国際ロータリークラブ、1M第5組ロータリーデーで
「国際奉仕活動と青少年育成」について基調講演を行う。

4月16日（水） 八尾ロータリークラブにおいて
フィリピン NPO 法人 ゴーシェアー代表と沢田が卓話

6月19日（水） 八尾市立竹渚小学校において
「国際理解教育～バヌアツ・フィリピンの奉仕活動について」
出前授業を行う。

10月9日（水） 八尾市立竹渚小学校において
「国際理解教育～バヌアツでの医療奉仕活動について」
出前授業を行う。

2025年

2月5日（水） 八尾市立竹渚小学校において
「国際理解教育～フィリピンでの歯科医療奉仕活動について」
出前授業を行う。

国際理解教育～JDM の活動を通して～

～NPO 法人 ジャパンデンタルミッションの活動を学んで～

1. はじめに

竹渚小学校の学校教育目標は、【生き生きと子どもが輝く学校】～笑顔と意欲にあふれ、一人ひとりが認められる教育の推進～ の育成を掲げている。これまでも、体験学習や子ども同士のつながりを大切にした取り組みに重点を置き、様々な外部講師の先生のご協力のもと学校教育を進めている。また、今年度は人権教育目標の中で、国際理解教育に力を入れており、外の世界に目を向けた取り組みの推進に力を入れたいとも考えている。

沢田先生や栗山先生にご協力をいただき、JDM の活動のお話をしていただく【バヌアツ学習】(竹渚小学校での呼称) も 9 年目を迎えた。今回は 2024 年度のバヌアツ学習の様子を報告する。



2. 学習について

5 年生を対象に、各学期にバヌアツやフィリピンでの JDM の活動をお話ししていただいた。第 1 回目の授業では、沢田先生や栗山先生の紹介からスタートした。事前にバヌアツやフィリピンでの歯科医療奉仕活動の話聞くことは伝えていたので、国の場所や大きさなどの情報を調べていた児童もあり、活動内容や場所についての話を意欲的に聞く様子も見られた。

バヌアツの言語や文化、暮らしている人々の様子などをお話しいただき、バヌアツ学習が初体験の 5 年生からすると、「歯磨きしてないのかな?」「なんで歯磨きしやんのかな」などのつぶやきがあった。講師の先生からのお話を聞き、バヌアツやフィリピンの人々の暮らしや JDM の活動を知ると、とても大切な活動をしていることに気づくことができた。



授業後の子どもたちの感想には、「外国まで行って活動しているのがすごいと思った」「自分たちにとって当たり前なのが、外国では当たり前ではないんだなと思いました」や、「私も外国の人たちのために何かできる人になりたいと思いました」などの声があった。第 2 回目の授業では、今年の実際の活動の様子を写真を交えてご説明頂いたり、竹渚小学校の 5 年生一人ひとりが作成した絵画作品を渡されている様子などスライドを中心に活動報告をいただいた。自分たちの作品を現地の子どもたちが手に取った様子を見たり、作ってくれた作品をもらったりと、文

化交流もすることができた。

3. 学習を終えて（児童の感想）

「日本の言葉（今年度は俳句）を使った絵を渡すことができて嬉しかった。自分たちが作った作品が日本を出て、外国の子どもたちが受け取っている様子を見て感動した」

「歯をみがくことは当たり前だったけれど、当たり前を見直すいい機会になりました。ありがとうございました」
「私たちの作品が届いていてよかったです。バヌアツでもバスケットボールがさかんなことに驚きました。いつか一緒にバスケットボールができると嬉しいです」

「少ない人数で歯の治療を見てあげていてすごいと思いました。自分たちの作品がバヌアツに届いて喜んでもらえてうれしかったし、バヌアツの人からも竹淵にメッセージをつけて届けてくれてすごくうれしかったです」

「向こうの子たちが作品を作ってくれていて、とてもキレイだなんて思いました。クレヨンとか色鉛筆で細かく描いてくれていて嬉しかったです」

4. おわりに

竹淵小学校では、毎年様々な外部講師の先生のご協力のもと、学校教育に取り組んでいる。バヌアツの国際理解学習では、外国の人々の様子や文化について知ることができた。日本人の大人から外国での奉仕活動のお話を聞けることは貴重で、子どもたちにとっても教科書では学べない新鮮な学びを得ることができたと感じる。奉仕活動の偉大さや大変さも改めて実感することができた。

JDM の活動の様子や同じ小学生の子どもたちの活躍を聞くことで、子どもたちの感想に多くあったのが、「自分も大人になったら外国でボランティアをしたい」「自分も何かできるのではないか」「将来やってみたい」などという気持ちを抱いたというものであった。今後も竹淵小学校では、子どもたちの豊かな心を育てる一つの取り組みとして、このようなバヌアツ学習を続けていきたいと考えている。

海外活動参加者感想文

宮前 真帆（歯科衛生士）

今回は歯科衛生士としてボランティアとして参加させていただき、たくさん新鮮な体験ができました。今回が、海外で歯科衛生士としての活動が初めてでした。海外の方の口腔内状況がどういうものなのか、島の方たちがどの程度口腔内に対しての関心があるものなのか、海外での歯科診療はどのようなものなのか、また、このボランティアに参加されている方たちはどのような理由や目的があって参加されているのかに関心を持ち、私も参加したいと思いました。

実際、ボランティアに参加させていただき、まず口腔内に関しては、日本と比較するとまだまだ口腔内状況は良くないと思いました。若年層の方でも下顎前歯部舌側や上顎臼歯部頬側に歯石が多量付着されている方、全体的にう蝕に罹患されている方、低学年児童の第一大臼歯のう蝕、また、全体的には歯肉腫脹が多くみられ、まだまだ口腔内に関しては関心度が低いのではないかと思います。

今回私は初めてのカオハガン島での参加であったため、最初の状態はわかりませんが、日本と比較すると口腔内状況は良好とは言えないので、もっと島の方に口腔内について関心をもっていただき、う蝕、歯周病罹患率を下げていけたらとても素晴らしい試みだと思います。

次に、歯科診療に関しては、スケーリング、レジン充填処置、抜歯が主な治療内容で、保存的な治療は難しいと知りました。日本では根管治療になる歯牙でも島では機器の問題や通院の問題でできないことを知り、やはり根管治療にいくまでに歯科衛生士として予防していきたいと思いました。また、清潔不潔の面でも不潔な面も多く見られるので、とても難しい問題点だと見受けられました。

今回、ボランティアに参加させていただき、いろいろな経験、たくさんのお話をお伺いさせていただき、自分はまだまだ歯科衛生士としても人間としても未熟ですが、この経験を通して、少しでも人のためになれたらいいなと思いましたし、自分をもっとアピールして自分の得意分野を出して皆様のお役に立てればと思いました。今回はありがとうございました。



内山ますみ（歯科衛生士）

私は日々、住民サービス向上を目指して地域全体の健康教育を行っている歯科衛生士です。仕事の中で成果が見えにくいことに悩んでいたある日、発展途上国での歯科医療ボランティアの機会を知り、実際に現場を見てみたいと考えました。

異なる医療環境や文化的背景の中で、患者さんの希望を聞き取り、限られた設備や資源を使い、できる限り満足して帰ってもらえるように提供できたことは、非常に貴重な経験となりました。

しかしながら、初めての海外ボランティア、初めてのフィリピン、初めて聞くビサヤ語、初めての雨水生活...すべてが未知の世界で、周りに気を配る余裕がありませんでした。この点については反省し、次回のボランティア活動に向けて、事前準備を徹底し、現地の文化やニーズにより即した支援ができるよう努めたいと考えています。

私は今後も、島の子どもたちがより健康で幸せな未来を迎えられるよう、支援を続けたいと思っています。

カオハガン島、「イボ！ゼロ！」を目指して。



木田 悠太郎（ボランティア）

今回初めてカオハガン島の活動に参加して



学校の公共の時間で、幸福とは何かというような漠然とした質問を投げかけられて僕はその時、幸福でないと思ってしまふのは社会の指標が原因であって自分自身の幸福の基準を変えることができれば誰でも幸福を享受できるものだと考えていました。

しかし、僕自身思春期ということもあり、周囲からの評価や反応にばかり固執して、自分自身の生き方を見失っていたのもあり、その考えには納得できないでいました。

そんな時に、母からカオハガン島の活動への参加を促されて行くことに決めました。

カオハガン島に着いて初めに感じたことは景色がとても美しいということです。

周囲を取り囲む海がどこまでも広がっている姿は悠久の時を思わせました。

僕が求めていた幸福はその景色の前ではあまりにも無力でした。

そうしてカオハガン島での活動が始まりました。

僕はメンバーの方々に仕事のやり方を教えてもらい、カルテの記入を行いました。

二日目に学校の生徒たちの検診を行った時が1番大変でした。

全校生徒が150人くらいいたので、四人体制でカルテの記入を行ったのにもかかわらず、とても疲れたのを覚えています。でもその疲れはとても気持ちの良い疲れでした。

診療が終わった後に広場に行って現地の子供達とバスケットボールをしたのですが初対面にもかかわらず私を友達と認めてくれたことが印象的でした。その時、幸福とは何かというような問題を考えること自体バカらしくなってきました。

なぜなら、彼らは日本人より貧しいかもしれないのに、日本人よりよっぽど生き生きしていたからです。

この活動に参加してみて自分の価値観が一変したのを感じました。

この経験を日々の生活に活かしていきたいと思います。

小林 玲花（歯科衛生士）

今回の経験を通して沢山のことを学び、自分自身本当に成長したと感じています。

多くの感動があり、言葉では表せない人々の心の豊かさを知りました。

この貴重な体験ができたのは、JDMの皆さんが昔から作り上げて来た島民の方達からの信頼や、カオハガンの人々に医療を提供したいと願うチーム全体の心意気があるからこそだと思います。

この旅に参加する第一歩を踏み出して本当に良かったなと思います。

今回は研修医での参加でしたが、来年のカオハガンではバージョンアップした状態で参加出来るように頑張りますので、よろしくお願いします。



高鹿 栞帆（歯科衛生士）



6年ぶり2回目の参加でした。今回また、カオハガン島に戻ってこれたこと大変嬉しく思います。ひとえに沢田先生が献身的に活動が続けてくださっているおかげです。ありがとうございます。また、素敵なメンバーと診療に携わっていただいたカオハガンのスタッフに恵まれ、6日間有意義な時間を過ごすことができましたこと感謝申し上げます。

今回、久しぶりに参加して感じたことは、カオハガンの住人の口腔衛生状態が良くなっていることでした。特に感じた場面は、学校健診でのシーラント充填（FS）に携わっている時でした。6年前は、永久歯がう蝕で崩壊しており、

FSができない子供たちも多くいたことが、鮮烈に記憶に残っています。今回は、う蝕の影響でFSが行えないといった症例があまりなかったこと、フッ素塗布のみの子供たちの場合は、以前のFSが残っていて口腔状態が良好なパターンでした。口腔内をチェックしながら、JDMの活動の成果を体感でき、大変嬉しく思いました。また、バランガイホール（診療所）の方では、主にクリーニングを担当させていただきました。残根やう蝕等が存在している方、ティーンエイジャーでも永久歯がない方もいましたが、クリーニング希望はカオハガン在住の方が大概だったと思います。リピートしている方もおり、島全体の口腔内に対する意識の変化も感じ取れました。全体的に見てみると、カオハガンの受診人数が減っており、近隣の島からの来訪が増加していました。治療の内訳をみても、カオハガンの住人よりも近隣の住人の抜歯の本数が圧倒的に多く、行列ができていたのが印象的でした。この差は、カオハガンの住民の歯の健康をJDMが守ってきたからだと思いました。そして、これに携われていることにとってもやりがいを感じ、また参加しようと心に決めました。

さらに、今回驚いたことは医療の質が向上していたことです。オートクレーブ滅菌が導入されており、器具の洗浄もしっかり行えていたことです。安全性を確保されているため、医療を提供する側も安心してボランティア活動ができたことは、6年前と比較して感慨深いものでした。とても素晴らしい成果だと感じました。

今回は参加人数が多く、効率よくそれぞれが動けていたと思います。声掛けもしっかり行えており、日に日にチームワークが良くなっていたことを実感しました。たくさんの方から刺激を受けることができた数日間で、ボランティアに対する熱意や、衛生士としての立ち回りや視野の広さなど大変勉強になりました。次回、ボランティアに参加した際はさらに動けるよう今回の学んだことや経験を活かしていきたいです。至らない点もあったかと思いますが、このチームでボランティア活動ができたこと、本当に嬉しいです。ご縁に感謝です。ありがとうございました。

島 猛（歯科技工士）

JDMと20年のお付き合いになり理事としても6年勉強させていただき、あとは現地活動をするのみとなりました。職場でも有給がとれるようになり1年待ちの参加でしたので楽しみでした。診療技工に関してはとても苦労しました。まず準備が大変で使えない機械があるは何がどこにあるかもわからない。咬合器は錆びており使えない。印象になると技工スペースをかなり取られ何もできず立ちながらワイヤーを曲げたり削ったりしていました。日本でいつも使ってる機械がなく使い慣れない器具、バーで制作する大変さをとても痛感しました。

セット時に関しては Dr とのコミュニケーション不足も反省でした。ここを詰めていけばもっと調整は少なくできました。義歯の制作も 2 床のはずが 7 床になった時も楽しみにして来てくれる患者さんを考えると断る選択はなかったですが結果オーバーワークになりドクターの皆さんと倉橋さんにかなり手伝ってもらうことになり残業になってしまいました。本当に感謝してます。もっと全体を俯瞰して自分が初参加であること、などを考えると減らすべきだったと思いました。自分の思いだけで突き進むのは危険だと思いました。反省。



今回の活動での発見は一人で抱え込まないで頼れるところはお願いしよう。

どんな状態でも前のめりで気持ちを切り替えて対応しよう。

集団行動なので全体の流れを俯瞰して抽象度を上げて決断しよう。です

島民の方々はとても親切で笑顔で接してくれました。真っ黒に澄んだ僕の心がクリアになっていくようでした。

気持ちの変化で一番驚いたことがあります。島を離れるまえに積んだお花をもらいました

日本ではいらないのですぐ捨てるかおいていくかなんですが写真をとって持って帰ろうとしていました。袋を取りに行ったらもうなくなっており悲しくなりました。今考えてもこの感情はよくわかりません。

お別れの時は涙が出てくるのでずっと船の奥にいました。

今回の活動は学びはたくさんありました。でも不完全燃焼 100 パーセントです。

次は 9 割やって満足度全開で帰りたいと思います。あと 2 回活動しようと思っています。その時はよろしくお願いします。

今回参加した皆さんありがとう。そして活動を支えてくださる理事の皆様にも感謝しております。

古市 慧海（ボランティア）

初めてボランティア活動に参加することを決めた半年前の僕は、カオハガン島という新しい環境に期待しワクワクしていましたが、それと同時に歯学生でもない普通の大学生の僕が活動に貢献することができるのだろうか、少し不安もありました。

実際に活動を通して感じたのは、できないことが大半を占める現場でも自分の出来る範囲で積極的に取り組むことでだんだんと全体の流れも理解することができ、数日間の活動を終えるころには今後につながる課題や問題を見つけ発言できるようになりました。日本とは全く違う環境だからこそアドリブでその場を対応する力や、自分の考えを言語化する力が高まりました。素晴らしいメンバーと島に恵まれ有意義な時間を過ごせました。



上原 新翔（歯科医師）

「私、失敗しないので」という決めゼリフで知られる女医が主人公の「Doctor.X」は、シーズン7まで制作されるほどの人気ドラマとして知られています。各シーズンの冒頭では、世界各地で活躍する主人公、大門未知子が日本へ呼び戻される場面から物語が展開します。私もまた、大門未知子のように海外で活躍したいという思いを抱いており、海外での医療活動の機会を探していたところ、JDM という団体を知りました。JDM のウェブサイトには、活動報告書や活動中の写真が数多く掲載されており、長年にわたり活動が続けている団体であることがわかりました。歴史のある団体なので安心して参加できると思い、JDM の参加を決意しました。現場のカオハガン島は日本人である崎山克彦さんが所有する島であり、崎山氏の手記が出版されているということから事前に書籍を通じて学習してから島へ行くことにしました。

実際に島に到着すると、30 年前の書籍で描かれていた状況とは異なり、トイレや電気が整備されていました。最も大きな課題は暑さでした。熱帯気候のカオハガン島にはエアコンや扇風機はありませんが、通常は心地よい季節風が吹いているため快適に過ごせるはずでした。しかし、今回はタイミングが悪く、夜になると風が止んでしまい、寝苦しい夜を過ごすことになりました。初日は全く眠ることができず、このような環境で 5 日間も生活できるのか不安を感じましたが、人間は環境に適応するもので 2 日目からは眠れるようになりました。この島では日が沈むと就寝するという生活スタイルであるため、私たちも遅くとも 22 時頃には就寝するという健康的な生活を送ることができました。

2 日目から 5 日目までは歯科診療を行いました。特に印象に残ったのは抜歯でした。日本では根管治療で保存可能な歯でも、カオハガン島では時間と機材の関係で抜歯せざるを得ない場合が多かったです。やむを得ず抜歯を行うしかない歯に多く出会いました。「抜歯処置なら『私、失敗しないので』」という意気込みで処置を行ったのですが、島ではなかなか脱臼できない歯がありました。沢田先生からは、島の人々は歯根が長いという特性を教えてください、抜歯のコツを伝授していただきました。他の先生方とも協力することで、多い日には 1 人あたり 1 日に 30 本ほど抜歯したと思います。診療中になかなか抜けない歯があり、精神的に落ち込みかけたこともありましたが、JDM メンバーのサポート、そして島の人々の優しい気持ちに支えられ、最後まで楽しく診療を行うことができました。



また、島の子供たちとの交流は非常に楽しいものでした。子供たちは好奇心旺盛で、よく私の名前を尋ねてきました。子供たちは名前をすぐに覚えてくれ、どこにいても名前を呼んで遊びに誘ってくれました。一緒に踊ったり肩車をしたりと、日本ではなかなかできない体験をさせてもらいました。最終日には島を離れる私たちのボートまで駆けつけてくれ、見えなくなるまで手を振ってくれました。その光景はまるでドラマのようでした。

カオハガン島、そしてオランゴ諸島の住民に歯科医療を届けるという目標に向かってメンバーが一丸となり、最初は初対面同士であったにもかかわらず、最終的には「心の友」と呼べるほど親密な関係になりました。ドラマの主人公に憧れて参加した今回のボランティア活動は、人生で最高の体験の一つとなりました。また来年も参加したいと考えています。ありがとうございました。

まず始めに沢田先生を始めとする団体運営の方々、今回現地で一緒の日々を過ごして頂いた皆様、本当にありがとうございました。とても充実した時間を過ごすことが出来ました。

私は以前からボランティア活動に興味を持っていましたが、参加する機会に出会えませんでした。今回は医療人として歯科医師免許を活かしたい、自分が培ってきたスキルを日本の医療だけでなく、多くの人々に還元したいと思い、今回に到りました。

ボランティア経験も初めてで、不安と緊張の中、初日を迎えましたが、最初から全員がとても接しやすく「さすがボランティアに参加する方々だな」と感心したことを覚えています。

カオハガンの患者は、日本とは違う口腔状態のため、1日が終わる度に治療の優先順位と1日の診療を円滑にするために滅菌、消毒等の確認を全員で話し合い、擦り合わせをしました。島民のためにより良い環境と診療を提供しようとするみんなの一生懸命な姿に感動しました。ボランティアに対するみんなの意識が日に日に向上し、1つにまとまっていくことを目の当たりにし、とても嬉しさと充実感を得られました。特に、慣れない仕事のはずなのに、滅菌して道具を持って来て下さる方々の仕事振りには感激しました。これが無ければ1日の診療は成り立たないと本当に感じました。ボランティアの方々、ありがとうございました。また、日本で堅苦しい社会にいた私は、みんなとボランティア生活をする中、参加メンバー全員が年齢、立場関係なく、1人1人の意見に真摯に傾聴する姿にも感動し、本来あるべき社会の姿だと実感しました。

もう一つ。悪天候のためスケジュール変更で最終日セブ島での食事の際の出来事です。JDMのTシャツを着ていた沢田先生をみた大学生バイト？ウェイトレスが我々に「カオハガン出身で小さい頃、JDMで歯を抜いた！」と話かけてくれました。それもそのお店に2人もいたことにも驚きですが、何より1人の子が歯科矯正器具を着けており、口腔内の意識改善が成功されたことに感動をしました。沢田先生の生涯をかけた志しに花が咲いたそんな場面にも立ち会うことが出来ました。

今回のボランティア経験は、皆んなが同じ方向を向いて、島民のために頑張るその1人1人のホスピタリティと行動に感動しました。この素晴らしいメンバーと日々過ごすことでとても充実した非日常となり、この出会いに感謝致します。また、目の前の治療をするだけでなく、島民の口腔内の意識を変えられる、素晴らしい活動と感じました。貴重な出会いと経験をありがとうございました。

この経験で培ったものを、これからの日常と診療にまた還元したいと思います。

長くなりましたが、とても充実した初参加でした。ありがとうございました。また参加したいと思います。

団体運営の皆様のご苦勞もお察し、感謝申し上げます。これからもこの素晴らしい活動の継続を願っております。



袴田 杜（ボランティア）

カオハガン島でのボランティア活動は、私にとって非常に鮮烈で、感動的な体験でした。

まず島に渡った私を待っていたのは、絵に描いたような南の島の光景。エメラルドグリーンの透き通った海に白い砂浜、豊かな緑に鳥のさえずりと子供たちの声。カオハガン島の美しい自然は、私にとって、島での活動の動力源であり、日本の多忙な日常から抜け出せる癒しの場でもありました。

とはいえ島での生活や歯科活動は初め、かなり不安がありました。電気も水道も無いという話でしたので、そのような環境でどのようにして生活基盤や歯科治療が営めるのか全く想像が付きませんでした。

しかし、ベテランのドクターさんや衛生士の方々が抵抗感の少ない方法を教えて下さったり、徐々に順応していくことができました。また、現地のスタッフさんが持つ島の人々の文化への理解も、私たちの活動にとって非常にありがたい助力でしたし、活動においては、初日の沢田先生の「仕事は与えられるものではなく、自分で探して見つけて来るものだ」という言葉が、島での活動中の自分の全ての行動指針になりました。

診療では様々な患者さんと向き合うことになりました。日を追うにつれカオハガン島民だけでなく、その周辺の島々からも、噂を聞きつけ海を渡ってくる人が大勢見られ、そんなにまでしてやって来る彼らの口の中には、残酷な現実があることも目の当たりにすることになりました。

活動中、そんな状態を突き付けられては、彼らは私たちの治療を心から必要としているんだとして、驕りつつも自分が必要とされる高揚感と、まだ免許も経験もない私では彼らに直接手を差し伸べることが出来ない無力感とで悔しさが沸いたりもしました。

また、活動を通じて、ボランティアの皆さんや現地のスタッフとともに協力し合うチームワークの重要性も、しかと思い知らされました。

メンバーは誰もが皆本当に親しみやすく、責任感と積極性に溢れた方々で、食事の際は談笑しながら、時にお互いの知識や経験を語り合い、現場では一人ひとりが支えあうことでより信頼感のあるチームワークを構築できました。活動が後半になるにつれ、連携が細やかかつ緊密になっていくのを肌で感じていました。

ボランティア活動を終えた後の、カオハガン島の子供たちからの感謝の花束や笑顔が、私の心に忘れられずに残っています。彼らとの思い出は一生の宝物であり、目を閉じれば今も彼らの笑顔が脳裏によぎります。

最後に、この歯科医療ボランティア活動は私に、貴重な人とのつながり、守っていききたい光景、新たな価値観、そして人々の健康に貢献できる喜びを授けてくれました。

この経験は間違いなく、私の人生を変えるほどの特別な体験となりました。

来年もぜひ参加したい。心からそう思います。

今後もこの経験を大切に、より一層努力していきたいと思っています。



まずは目の前、今年の CBT で学内トップを獲ることから。

気合は十分。突き進め。

2025年度 海外活動予定

参加のジャンルは、歯科医師、歯科技工士、歯科衛生士、一般ボランティアとなっております。現地でのお仕事（活動）は、医療活動に限らず多種多様ですので、どなた様でもご参加可能です。

皆様のご参加をお待ちしております。

参加申し込みは当会ウェブサイトからお願いします。

<http://www.japandentalmission.org>

バヌアツ共和国

今年度の活動はありません。

フィリピン共和国

チーム名	日 程	締切日
10月カオハガン島	2025年10月11日～15日	2025年9月10日
2月カオハガン島	2026年2月21日～26日	2026年1月25日

*状況により予定は変更します。

参加費用

バヌアツ共和国

フィリピン共和国

科 目	金 額	金 額
航空運賃*1	約25万円	約8万円
滞在費	現地宿泊費、食費等	
ユニフォーム代*2	3千円	3千円
合 計	約30万円	約10万円

*1：チケットは参加者自身で手配して下さい。

*2：持っていない方のみ

ジャパン デンタル ミッションについて

Year	沿 革
1982	歯科医の沢田が理事を務めていた社団法人南太平洋協会を通じてバヌアツ共和国の事を知る
1983	眼科医の岩崎氏と共に“バヌアツに医療を送る会”に歯科医師として沢田が、バヌアツ共和国で活動を開始
・ ・ ・	沢田は、一人で活動を続けていたが、現地の人たちの口腔内の機能回復を目的として歯科技工士に同行してもらい、歯科衛生士や一般のボランティアへと参加者層が広がり参加者が増えてくる事となる。
1995	活動内容の拡大のため「NGO南太平洋に歯科医療を育てる会」を設立
1996	フィリピン共和国カオハガン島のオーナーである崎山克彦氏からの依頼を受け、カオハガン島での歯科医療活動を開始
	バヌアツ共和国に年2回、フィリピン共和国に年2回の活動を継続している。
2003	組織をNPOとし、名称を「NPO法人ジャパン デンタル ミッション」に変更
2004	バヌアツ共和国保健省とJDMの現地における歯科医療サービスについて合意、調印を結ぶ。
	現在に至る

ジャパン デンタル ミッション活動方針

1. 歯科医療活動

●バヌアツ共和国における歯科医療活動

ペンテコスト島において、中心となる病院を拠点として診療活動を行っています。

また、病院の周辺の小・中学校に行き、歯科検診及びブラッシング指導を行っています。

●フィリピン共和国における歯科医療活動

カオハガン島において、簡易診療所を中心に診療活動を行っています。

島内にあるカオハガン幼稚園・小学校に歯科医師・歯科衛生士・ボランティアのチームで歯科検診並びにブラッシング指導や染め出しを行い、歯の磨き方を指導しています。

2. 文化交流活動

●絵画などの交換

バヌアツ共和国、フィリピン共和国の両国に日本から画用紙や絵の具、クレパスを寄贈し、子供たちに絵を描いてもらいます。その絵を日本に持ち帰り絵画展を様々な所で行っています。

また、白地の鯉のぼり、凧、羽子板などに日本とバヌアツの子供たちが絵を描き、交換しました。

その他、日本の伝統的文化を基に交流を行っています。

3. 生活向上活動（派遣国の生活のQOLがより向上するための活動）

●文房具、スポーツ用品の寄贈

歯ブラシ、文房具、スポーツ用品などの寄贈も行い、現地の子供たちの識字率の向上、学業支援や健康促進を考えています。

●運動会の開催

フィリピン共和国カオハガン島において、島民たちとのふれあいの意味も込めてJDMスタッフと一緒に運動会を行っています。

4. 青少年育成

ボランティア活動に参加した若い学生達はプロのメンバーと共に活動し、助け合い、話し合ったりするうちに積極性や活力が付き、彼らの自己成長を養う為のお手伝いをしています。

協力者名簿

- ・ (株)アド・ダイセン
- ・ アベ・ラベリング(株)
- ・ オーエム歯材(株)
- ・ 大阪歯科大学 口腔衛生科
- ・ 大阪市立開平小学校
- ・ 大阪市立昭和中学校
- ・ 大阪市立高津小学校
- ・ 大阪市立玉造小学校
- ・ 大阪市立中央小学校
- ・ 大阪市立中大江小学校
- ・ 大阪市立南大江小学校
- ・ 大阪市立南小学校
- ・ 大阪船場ロータリークラブ
- ・ 大阪南太平洋協会
- ・ 大阪府歯科医師会
- ・ 尾崎歯材(株)
- ・ 川西市歯科医師会
- ・ 関西国際交流団体
- ・ 関西学院中学部
- ・ 清原(株)
- ・ 共栄社化学(株)
- ・ グラクソ・スミスクライン(株)
- ・ 国際ソロプチミスト大阪-梅田
- ・ コクヨ S&T(株)
- ・ サクラクレパス(株)
- ・ 沢井製薬(株)
- ・ 笹野電線(株)
- ・ 沢田歯科
- ・ サンスター(株)
- ・ (株)システムつう
- ・ (株)ジャックス
- ・ シンク(株)
- ・ 甚田会計事務所
- ・ スポーツネットワークジャパン
- ・ 住之江歯科医師会
- ・ スモカ歯磨(株)
- ・ セイコーエプソン(株)労働組合
- ・ 全日本ブラシ工業協同組合
- ・ 大日本除虫菊(株)
- ・ 大平工業(株)
- ・ 太洋旅行(株)
- ・ 嶽北歯科
- ・ タナベスポーツ(株)
- ・ 株式会社ツサカ
- ・ つるや(株)
- ・ トキワ(株)
- ・ 有限会社トリビ
- ・ 南総工業(株)
- ・ 西澤歯科医院
- ・ クリエイト(株)
- ・ 日本歯科医師会生涯研究課
- ・ 白水貿易(株)
- ・ ハグルマ封筒(株)
- ・ (有)ハマダデンタルサプライ
- ・ 樋口歯科医院
- ・ 平田歯科医院
- ・ 不二印刷(株)
- ・ ヘリテック・アイコニックス・ベンチャーズ(株)
- ・ 蛍印刷(株)
- ・ モリタ(株)
- ・ 八尾市立西山本小学校
- ・ 八尾ロータリークラブ
- ・ 八千代オート(株)
- ・ ユー・エフ・オー(株)
- ・ 陽春園(株)
- ・ 吉竹歯科医院
- ・ DENTRADE
- ・ Greenpath Corporation
- ・ JICAバヌアツ支所
- ・ NPOセンター
- ・ TKX(株)
- ・ UHA味覚糖(株)
- ・ ナカガワ(株)
- ・ デンタルプロ(株)
- ・ 共和メディカル株式会社

本年度寄付を頂いた皆様

順不同

古市まちのひかり歯科クリニック
ワカスギ歯科クリニック
倉橋 朋子
石原 典子
大嶋 捷正
藤本 茂子
横山 暁一
沢田 旭子
柳田 美紀

もえぎ歯科クリニック
原 昭子
嶋村 寿美江
斧原 周子
小林 トヨ子
馬淵 ひづる
宮崎 キミコ
米田 紘一
川田 昌美

藤田歯科医院
中島 喜代美
瀬野 耕司
片岡 清夫
沢田 和義
三鼓 真司
関 淳子
杉田 三千子
片岡 清夫
高橋 ひとみ
東 定子
金本 裕光
館野 征子
守下 雅美
住田 猛
石橋 勝

クラウドファンディングを始めました

必要な器具や装置が不足しています。安全な医療活動を継続するために皆様のご協力をお願いします。

<https://for-good.net/project/1001641>



5/1 から 7/29 まで。

目標金額：300 万円

クラウドファンディングに 是非ご協力をお願いします

世界には貧困や医療従事者が不在のため
歯の治療が出来なくて困っている子供たちが居ます



皆様のご支援が子供たち
の歯を守る



食事が普通に出来る歯を！

安全な治療

滅菌器、ポータブル
ユニット、ポータブル
レントゲン照射機、
技工機材等の調達

適正な薬剤

適正な薬剤を提供し、
痛みや病気から歯を
守る

現地と日本の 子供達の交流

文房具を寄贈し、子
供達に絵を描いてもらい、文化交流による相互理解を行う



2025 年 6 月 15 日発行 発行者 : NPO 法人ジャパン デンタル ミッション

〒542-0085 大阪府中央区心斎橋筋 1-5-28 心斎橋コアビル 沢田歯科内

TEL : 06-6252-0118

URL : <http://www.japandentalmission.org> E-mail : info@japandentalmission.org

*本書の一部または全部を無断で複製、転載引用することを強く禁じます。